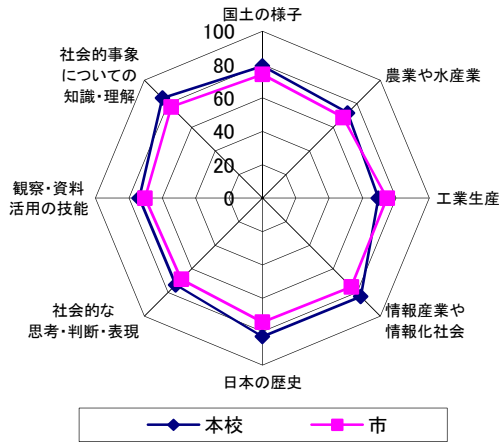


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	79.2	74.1	72.5
	農業や水産業	72.2	68.4	61.6
	工業生産	69.4	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	83.3	75.3	74.0
	日本の歴史	82.9	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.6	68.7	64.2
	観察・資料活用・技能	73.8	70.3	68.1
	社会的事象についての知識・理解	84.8	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○「わたしたちの生活と環境」では森林を守るための間伐や環境を大切にするリサイクルについてよく理解している。 ●「世界の中の国土」の日本海側の気候のグラフから該当する地域を選ぶ問題では正答率が低く、グラフの読み取りに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の気候について、気温や降水量に注目させ、場所によって気候が異なり、それぞれ特徴があることを理解させる。 ・世界地図などを利用して、島国日本の地理的特徴を理解させる。
農業や水産業	○食糧生産に関する地図の読み取りやとうもろこしに関する資料から現状を考察する問題では、市の平均正答率を上回った。 ●米づくりに向いている地域の特色や品種改良に関する問題では正答率が低く、社会的な思考・判断・表現の観点で課題が見られた。	・日本の農業を支える米づくりにおいて、つくりやすい地域や環境、気候への影響を少なくする品種改良などについて、思考を伴わせながらその知識を習得させたい。そのためには実際の問題・課題・矛盾といったことを授業の中で取り入れ、考えていく糸口にしたい。
工業生産	○自動車生産の工程について100%の正答率であった。 ●日本の工業地帯や工業地域の特色について、地図を読み取る問題では正答率が低く、課題が見られた。	・実際の生活では見られない、分かりにくい内容であるため、視覚的に分かりやすい写真資料や映像資料を活用し、指導していくことが必要である。 ・気候と同様、場所によって異なるような内容については、ここでは工業地帯や工業地域の特色について、なぜそのような特色があるのか国土の地形などと関連させて指導する。
情報産業や情報化社会	○情報の利用の仕方についてよく理解している。 ●情報ネットワークについて、コンビニエンスストアから考察する問題では正答率が低かった。	・時代の変化とともに情報の利用の仕方も変化していくため、情報収集や利用の仕方、注意すべきことなど確実に指導する。 ・情報は自分たちの生活に深く関わっていることから、実際の生活と関係させながら指導する。
日本の歴史	○日本の歴史についてはどの問題においても市の平均正答率を上回り、雪舟が描いた水墨画を選ぶ問題では100%であった。 ●年表や資料から読み取って考える問題では正答率が低く、課題が見られた。	・各時代ごとの人物と起きた出来事について関連付けを図りながらノート等に整理させる。 ・グラフをはじめ、資料を用いてそこから読み取り、何を考えられるかについて授業の中に取り入れて指導していく必要がある。